

## 〈 セミナーのご案内 〉

● 今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご覧につき、ご高配をお願いいたします。

回  
覧

--	--	--	--	--

大学評価・情報シリーズ 16 (通算 420 回)

2009 年 6 月 16 日 (火)

戦略的情報公開による社会評価 —

# 大学の情報発信力～検証と進化～

大学評価・情報シリーズ 17 (通算 421 回)

2009 年 6 月 17 日 (水)

大学・法人情報の集約と活用 —

# 日本型 I R 部門の構築と機能強化策

戦略的情報公開による社会評価 —

## 大学の情報発信力～検証と進化～

～学生・職員・教員・理事の魅力とパワーとの出会い～

- ※ 読売新聞「大学の實力」調査／浮かび上がる大学／情報発信への不安と焦り
- ※ [東京経済大] 広報・広告のコラボ／記者式育成／「内製」発信はリーダーシップから
- ※ [信州大] 学内情報の共有／“信大ブランド”の発信／メルマガ「週刊信大」／信大TV
- ※ [近畿大] 大学広報最前線／年間 70 件のプレスリリース／「広告換算」＝年間 90 億円

### ● 講師陣 ●

- |         |   |                                   |
|---------|---|-----------------------------------|
| 森 玲子 氏  | ／ | 東京経済大学広報課長、元・NHK 経済部記者            |
| 松本 美奈 氏 | ／ | 読売新聞社編集局生活情報部記者「大学の實力」担当          |
| 野村 彰夫 氏 | ／ | 信州大学理事 (広報・情報・国際交流・渉外担当)・教授、前工学部長 |
| 門 利幸 氏  | ／ | 近畿大学総務部広報課長                       |

2009 年 6 月 16 日 (火) 剛堂会館 会議室 (東京・麴町)

大学・法人情報の集約と活用 —

## 日本型 I R 部門の構築と機能強化策

～教育改善・質保証・評価活動の進化へのキメ手～

- ※ 何が I R か／私立大学での現状／組織の構築／実践プロセス／可能性
- ※ 米国大学の I R の機能／データと戦略をつなぐ／日本での展開シナリオ
- ※ 教育・経営情報の収集・分析・提供／I R 担当者 (IRer) の実践と苦悩
- ※ 日本版学生調査 (JCSS/JFS) の役割と活用／ベンチマーク評価と I R

### ● 講師陣 ●

- |         |   |   |
|---------|---|---|
| 沖 清豪 氏  | ／ | 早稲田大学文学学術院教授                              |
| 森 利枝 氏  | ／ | 大学評価・学位授与機構 学位審査研究部准教授                    |
| 秦 敬治 氏  | ／ | 愛媛大学准教授、教育学生支援機構 教育企画室副室長、<br>経営情報分析室兼任教員 |
| 山田 礼子 氏 | ／ | 同志社大学社会学部教授、大学教育開発センター所長                  |

2009 年 6 月 17 日 (水) 剛堂会館 会議室 (東京・麴町)



地域科学研究会・高等教育情報センター

[ 参加要領 ]

日時 : 大学評価・情報シリーズ 16 「大学の情報発信力～検証と進化」  
 2009年6月16日(火) 9:30～16:50  
 大学評価・情報シリーズ 17 「日本型IR部門の構築と機能強化策」  
 2009年6月17日(水) 9:30～16:50

会場 : 剛堂会館(明治薬科大学)会議室 (東京・麹町) ※両日程、同会場です  
 東京都千代田区紀尾井町3-27 TEL 03-3234-7362  
 (東京メトロ有楽町線「麹町駅」1番出口から徒歩4分、JR中央・総武線「四ツ谷駅」麹町口から徒歩10分)

参加費	ご一名 (資料代を含む)	メディア参加 (資料及び収録カセットテープ送付)
大学評価・情報シリーズ 16 大学の情報発信力～検証と進化	41,000円 (消費税込)	42,000円(送料、消費税込)
大学評価・情報シリーズ 17 日本型IR部門の構築と機能強化策	42,000円 (消費税込)	43,000円(送料、消費税込)

※参加費の払い戻しはしませんので、申し込まれた方の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。

申込方法 : 参加申込書に所要事項を記入のうえ FAX または Email にてご送付ください。  
 受講証と会場地図を送付しますので必ずご確認ください。

支払方法 : 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。  
 みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱東京UFJ銀行神田支店 普通 5829767  
 三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 \*郵便振替:00110-8-81660  
 口座名 (株)地域科学研究会  
 (なお、ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は⇒ <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/> E-mail: [kkj@chiikikagaku-k.co.jp](mailto:kkj@chiikikagaku-k.co.jp)

お申込み・お問合せ



地域科学研究会  
 高等教育情報センター

東京都千代田区一番町6-4 ライオンズ第2-106  
 TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

2009年 月 日

- 大学評価・情報シリーズ 16 大学の情報発信力～検証と進化  
 当日参加  メディア参加
- 大学評価・情報シリーズ 17 日本型IR部門の構築と機能強化策  
 当日参加  メディア参加 (□に✓印を入れてください)

勤務先 \_\_\_\_\_

所在地 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

FAX \_\_\_\_\_

連絡部課・担当者 \_\_\_\_\_

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

(通信欄) 支払方法(郵便振替・当日払い・銀行振込) 請求書(要 不要)

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
09:30 ～ 11:00	<p>□ [東京経済大] 広報・広告のコラボと人材育成 ～「内製」発信はリーダーシップから～ 東京経済大学 森 玲子</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「たまたま」の出会いが戦略の「必然」へ             <ol style="list-style-type: none"> <li>コピーライターと元記者 (2)「大学業界」にマーケティング、「差別化」は攻めの姿勢で</li> <li>「総花的」から「インパクト重視」へ、トップの決断</li> </ol> </li> <li>「りんごの芯」をメディアへ届ける             <ol style="list-style-type: none"> <li>広報力は「ネタ発掘」と「ハウツー」 (2)「ヒット商品」はネタの仕込みから、プランから</li> <li>「芯」から「メッセージ」へ、「メッセージ」から「芯」へ</li> </ol> </li> <li>仕事は遊びから、好奇心から。「ようこそ」から始めよう             <ol style="list-style-type: none"> <li>「1次情報」をつかむ“人柄”がある、「2次情報」はいらない</li> <li>広報スタッフの促成栽培は「記者式育成ノウハウ」で</li> <li>キャンパスとメディアにネットワーキング</li> </ol> </li> <li>結論             <ol style="list-style-type: none"> <li>言葉と情報の扱い方、処方箋はあるか？</li> <li>データとメッセージ創出、ニュース発信の循環が生まれるまで</li> <li>基本は「3ヵ月後」の共感。学内コミュニケーションは直向きに。 (質疑応答)</li> </ol> </li> </ol>
11:10 ～ 12:40	<p>□ 大学の實力 ～「情報発信」が浮沈を分ける～ 読売新聞 松本 美奈</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>読売新聞「大学の實力」調査             <ol style="list-style-type: none"> <li>偏差値やブランドによらない大学選びのための情報提供</li> </ol> </li> <li>浮かび上がる大学のいま             <ol style="list-style-type: none"> <li>大学は組織か (2) 経営感覚と常識</li> </ol> </li> <li>情報発信への不安と焦り             <ol style="list-style-type: none"> <li>説明責任とのほごまで (2)「黙っていても学生が集まる」？</li> <li>どう受け取られるかわからない</li> </ol> </li> <li>生き残る大学、心配な大学～現場を歩いて (質疑応答)</li> </ol>
13:40 ～ 15:10	<p>□ [信州大] 学内情報の共有と“信大ブランド”の発信 ～メルマガ「週信大」/信大TV/Webの拡充～ 信州大学 野村 彰夫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>国立大学法人化をパラダイムシフトと認識して大学は対応しているか             <ol style="list-style-type: none"> <li>国家公務員体質からの脱皮ができているか (2) 財政基盤はどうなっているのか</li> </ol> </li> <li>信州大学における組織運営体制改革             <ol style="list-style-type: none"> <li>事務局長体制の消滅と管理運営体制の一本化</li> <li>役員会のリーダーシップに基づく迅速な対応と縦割り運営の排除</li> </ol> </li> <li>広報情報体制             <ol style="list-style-type: none"> <li>広報情報担当理事の守備範囲 (2) 広報情報室の設置</li> </ol> </li> <li>これまでの取組課題             <ol style="list-style-type: none"> <li>広報情報室長の民間からの登用 (2) 学内向けメルマガ「週信大」の発刊</li> <li>広報誌「信大NOW」の充実と広告掲載 (4) ホームページの全面的な見直し・再構築</li> <li>信州大学テレビの開局</li> <li>学術情報発信システム (SOAR) の開発とソフトの無償提供 (質疑応答)</li> </ol> </li> </ol>
15:20 ～ 16:50	<p>□ [近畿大] 大学広報最前線 ～年間広告換算「90億円」の報道を呼び込むメディア・リレーション～ 近畿大学 門 利幸</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>広報体制：建学以来の大改革が「近大」を変えた             <ol style="list-style-type: none"> <li>PR会社といかに「付き合う」べきか/PR会社の「正しい」活用法とは</li> <li>内部ヒアリングの重要性——「縦割り」組織からネタを吸い上げる</li> <li>「即決・即実行」が成果を生む——年間70件：プレスリリースの手法</li> </ol> </li> <li>広報活動事例：大学の「枠」を超える挑戦             <ol style="list-style-type: none"> <li>共同会見・共同リリース——「手を組む」ことで情報価値をアップ</li> <li>アスリート、著名人、キャラクター絡め話題提供</li> <li>地域・産学連携と実学——情報に「社会性」を与える</li> </ol> </li> <li>アウトプットと成果：広報が「プラスの連鎖」を呼んだ             <ol style="list-style-type: none"> <li>倍増した報道件数 (2) 学内の広報マインドを刺激する「広告換算」</li> <li>広報活動が「志願者増＝収入増」に結実</li> </ol> </li> <li>ワンポイントアドバイス             <ol style="list-style-type: none"> <li>「広報キャンペーン」のススメ (2) 広告は「受け身」ではムダになる</li> <li>教職員部署横断「近未来プロジェクト」の成果 (質疑応答)</li> </ol> </li> </ol>

# 日本型 I R 部門の構築と機能強化策

2009 年 6 月 17 日 (水)

時 間	講 義 項 目
09:30 } 11:00	<p>□ I R の実践プロセスと組織構築の留意点 ～私立大学における多様な取組みのために～</p> <p style="text-align: right;">早稲田大学 沖 清豪</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. IR の意味を確認する……何が IR か？</li> <li>2. IR の現状を把握する……私立大学で何が行われて「いない」のか？</li> <li>3. IR の組織を構築する……どこ／誰が何をすべきか？</li> <li>4. IR の可能性を考える……できること／できないこと／すべきこと／する必要のないことは？ (質疑応答)</li> </ol>
11:10 } 12:40	<p>□ 米国の I R 機能と日本での展開シナリオ ～データと戦略をつなぐ I R 専門家～</p> <p style="text-align: right;">大学評価・学位授与機構 森 利枝</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インシテューショナル・リサーチ：翻訳者の仇             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) アメリカの大学の IR の成立</li> <li>(2) データ係か戦略立案者か</li> </ol> </li> <li>2. 日本における I R の可能性             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本の大学に IR は存在しないか</li> <li>(2) 求められる総合性と継続性</li> <li>(3) 認証評価と IR</li> </ol> </li> <li>3. 日本の I R の将来展望             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) もしもあなたにお金と力があって……</li> <li>(2) アウトソーシングの可能性</li> </ol> </li> </ol> <p style="text-align: right;">(質疑応答)</p>
13:40 } 15:10	<p>□ 大学教育・経営情報の収集・分析・提供の実際 ～ I R 担当者 ( I R e r ) を取り巻く環境と実践～</p> <p style="text-align: right;">愛媛大学 秦 敬治</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本における I R の実態</li> <li>2. 日本における I R の必要性和可能性</li> <li>3. 愛媛大学での取り組み</li> <li>4. 日本における I R の課題と I R e r の苦悩</li> </ol> <p style="text-align: right;">(質疑応答)</p>
15:20 } 16:50	<p>□ 日本版学生調査 ( J C S S / J F S ) の役割と活用 ～ベンチマーク評価と連動する学生調査の実際と I R ～</p> <p style="text-align: right;">同志社大学 山田 礼子</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本版学生調査プログラム ( J C I R P ) の役割と機能             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本版大学生調査 ( J C S S ) と日本版新入生調査 ( J F S ) から何がわかるか</li> <li>(2) 開発の背景と意義～間接評価と直接評価の違い</li> <li>(3) アメリカにおける学生調査の役割と活用</li> </ol> </li> <li>2. 日本版大学生調査 ( J C S S ) と日本版新入生調査 ( J F S ) の実際             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本版大学生調査 ( J C S S ) とアメリカ版大学生調査 ( C S S ) のデータ比較</li> <li>(2) 日本版新入生調査 ( J F S ) の実際</li> <li>(3) 継続的データの活用とベンチマーク評価</li> </ol> </li> <li>3. 学生調査と I R             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育改善に向けての I R の機能</li> <li>(2) I R 充実に向けての学生調査の活用方法</li> <li>(3) 学生調査データと教務、入試データとの統合に向けて</li> </ol> </li> <li>4. 結論と将来への示唆</li> </ol> <p style="text-align: right;">(質疑応答)</p>